

八王子地区保護司会だより



社会参加活動（大栗川清掃）

学校・家庭・地域の連携強化をめざして

八王子市教育委員会

教育長 坂倉 仁



八王子地区保護司会の皆様には、罪を犯した者の更生保護活動や、犯罪・非行の予防を図るための啓発活動を通して、青少年の健全育成にご尽力いただき誠にありがとうございます。

子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、学校教育においても早急に対応すべき課題が山積しています。なかでも「いじめ」は大きな社会問題となっています。八王子市教育委員会では「いじめはどの子どもにも、どの学校においても起こり得る、だれもが被害者にも加害者にもなり得る」という認識のもと、学校が家庭、地域、関係機関等と連携し、一丸となって未然防止に取り組むことが最も重要であると考え、十分な実態把握に努めるとともに、学校が早期発見・早期解決を図るための取組みを支援しています。

八王子地区保護司会の皆様には、学校との連携

を強化する中で、いじめ問題だけでなく、「青少年サポートネット・はちおうじ」の開設をはじめ、薬物乱用防止や犯罪予防の講義、学校を含む地域の清掃活動など、様々な取組みを行い、子どもたちの健全育成に大きな役割を果たしていただいているところです。

貴会のこうした活動は、まさに社会全体が一丸となって子どもたちの成長を支えるものであり、今後も継続的に実施され、学校、地域との連携をさらに強化されることを期待しています。

八王子市教育委員会においても、これまで以上に学校、家庭、地域との連携・協働を図り、子どもたちの豊かな社会性・人間性を育むための教育施策を積極的に推進してまいります。

最後に、八王子地区保護司会のさらなる充実と会員の皆様のご活躍を祈念して挨拶といたします。

平成24年度 社会参加活動

～大栗川周辺清掃活動～

みなみ分区 川野 正一



社会参加活動として大栗川周辺清掃活動が、平成 24 年 11 月 11 日（日）9 時から川沿い両岸と野猿街道の歩道で実施されました。

前日は雨模様で天候が心配されましたが、当日は晴天に恵まれ気持ちよく清掃作業が行われました。野猿街道沿いの植え込みの中に、空き缶やタバコ等、ゴミがたくさん入っているのには驚きました。見つけるのも取り出すのも大変でした。マナーの悪いドライバーや歩行者が結構いるものです。BBS 会の青年（大学生）たちと「自分たちは、このようなことは絶対してはいけないね、反面教師だね」と語りつつ

作業をしました。

まちなみがきれいになるのは実に気持ちのよいものです。清掃する人の心もきれいにあらわれる思いがしました。

この活動は、対象者が社会参加・ボランティア活動を通して、人のために役に立つこと、社会から認められることにより、社会の一員としての自覚や社会性を育むためのものです。一方、このような活動を通して、各機関や団体等の人たちとの交流や横のつながり、連携が深まるという意義のあることだと感じました。

参加者：みなみ分区保護司会 20 名（OB 含む）、
BBS 会 9 名、南大沢警察署 5 名、
少年 3 名、保護観察官 1 名、

計 38 名

（表紙の写真参照）

～高尾山学園清掃活動～

西分区 山田 正敏

平成 24 年 11 月 25 日（日）、社会参加活動・八王子市立高尾山学園の清掃活動が実施されました。高尾山学園の清掃活動も今年で 8 回目となり 58 名が参加されました。

開会式では、大竹保護司会会長・立川支部鈴木統括観察官・高尾山学園小谷野校長の挨拶の後、中央・高尾・西の三分区に分かれて作業を始めました。

今年は構内の手入れが行き届いており、落ち葉も意外と少ない状況でした。保護司の先生方も作業には慣れており、段取りも手際よく、作業が順調に進みました。

さらに作業終了後、学校長のお礼の言葉と職員紹介があり、その後、更生保護女性会の手作りの温かい味噌汁とおにぎり、飲み物やみかんを手で談笑のひと時を過ごした後、解散となりました。

参加した少年達にとって、この社会参加活動で流した汗は心の糧となる収穫があったものと思われれます。特に、当日、風邪を引き体調不良ながらも参加した少年、積極的に作業に取り組んでいた少年の姿に「明日への希望」が映りました。



～ひよどり山中学校の清掃活動～

東分区 秋山 重男



平成 24 年 12 月 2 日（日）、ここ数年継続している「ひよどり山中学校清掃活動」が行なわれました。この日は天気も良く、参加者は、少年 5 名、保護司 14 名、保護観察所より支部長及び主任官、警察より 3 名、その他、学校より副校長の総勢 25 名でした。

この清掃活動にあたり、少年達の活躍には眼をみはるものがありました。保護司の指示したことはもちろんのこと、自主的に体を動かし、刈り取った草をリヤカーに乗せ、指定された場所に少年達で協力して運ぶなど、積極的な行動をしていました。

この少年達は、保護観察期間が終了すれば、立派に社会の中に入っていくと確信しています。

また、活動に参加した保護司をはじめ、支部長・主任官等もなれない野外仕事に汗を流し、初冬の日陽しの中、清掃活動終了後のおにぎり・味噌汁の味がそれはそれはおいしいものでした。



主任児童委員部会との 情報交換会を開催

学校担当委員会 黒沢 栄

平成 24 年 11 月 8 日、教育センターにおいて、保護司会学校担当委員会から 28 名、八王子市民生児童委員協議会、主任児童委員部会から 30 名が参加しての情報交換会が開催されました。最初に全体会として、上野和広八王子市教育委員会統括指導主事に「学校サポートチームの役割」と題してお話をいただきました。児童・生徒の問題行動（暴力行為、いじめ、不登校）を学校だけでなく地域との連携によって問題解決していこうという目的でサポートチームは八王子市内の全小・中学校に設置済みだそうです。

次に 2 件の中学校の事例発表の後、全体を 6 つ



のグループに分け、それぞれ 1 時間にわたって情報交換を行ないました。

私の所属したグループでの様子は、各学期ごとにサポートチーム会議が開催されている学校から、ほとんど開催されていないところもあったり、またメンバーに校医が入ることで専門的立場からの助言がもらえるという学校がある一方、保護司がその委員に選ばれていないというところもあり、学校によって運営方法にかなりの差があるように感じました。また開催されても全体的には学校の対応を理解してもらうための会議が多いようで、チームとして個別の生徒、児童をサポートするところまではまだ行っていない学校が多いようでした。

その後の各グループの発表で色々な事例や報告を聞きましたが、事件がなくても年に 1 回くらいは顔合わせでもいいから開催してお互いにコミュニケーションを図ったらどうか、皆忙しい中で学校も委員も多大な労力を使って集まるので、自分に何ができるか、建設的に考えて取り組んではどうか、という意見にはなるほどと思いました。サポートチームが本来の機能をまだ果たしていない学校もあるようですが、いざ問題が起きた時、それぞれのメンバーの立場で的確に支援できる体制を整えることが改めて重要だと思いました。

一 頑張っている中学生との懇談会一 市立石川中学校・部活動の リーダーたち

東分区 山中 廣司

保護司活動において「学校との連携」が重要課題の一つと言われている。八王子地区保護司会「学校担当委員会」では、毎年市内の中学校にお願いして生徒たちと直接懇談をする機会を頂いている。この活動の目的は生徒たちに保護司の活動を理解してもらい、更生保護や犯罪予防に協力を得ること。また保護司も青少年と直接会話をすることにより青少年の考え方を学ぶことにある。また学校担当委員会活動の参考にするためのものでもある。

平成 24 年 11 月 26 日（月）に開催された 7 回目となる懇談会は、市立石川中学校の奥村校長先生にお願いし、部活動のリーダーたちとの懇談であった。伊藤委員長の趣旨説明から始まり、伊藤副委員長の司会から、生徒さんたちへ

- ① 今、頑張っていること
- ② 部活動で苦労していること

③ 少年非行をどう思うか

の質問を提示し懇談は始まった。

①②の質問にはリーダーとして部員をまとめるのに苦労している。人数の多さ、1 年生の比率の高さや、新しく創設された部では特に大変な様子が語られていた。しかし関東大会に出場や対外活動を予定している部では、目標に向かって心一つにしやすいと語っていた。我々大人にも共通する思いであった。今リーダーとしての苦労は必ずや人生の栄養となることを保護司がアドバイスをしていた。③については「よく分からない」という答えが多く、良くないという認識と校則を守って中学生らしい行動を希望するという発言が数人からあった。発言が途切れた頃、奥村校長先生から、「どうして、校則を破るのだろう」という突っ込んだ投げかけには「目立ちたい」「目立つことがカッコいい」「校則を守ることがダサイと思う」等の回答があった。

終了前に各保護司から参加者に対し、保護司の仕事や担当した少年の話、青少対の犯罪予防活動への参加呼びかけ、社会的変化等の話、薬物の話しなどがあり、中学生の心に深く伝わったと確信しました。

「福島刑務所」を視察して 東分区 瀧見 浩之

東分区の管外研修をどのように行うかを旅行委員会が検討する中で、東日本大震災とこれに伴う福島第一原子力発電所の事故により大災害を被った東北地方の矯正施設を視察することが決まり、その対象として「福島刑務所」が我々の希望を受け止めていただけることになりました。

さらに今回の研修会にあたり、東分区内の更生保護女性会会員に参加を呼びかけたところ、4名の方々が参加していただけることになりました。

平成 24 年 11 月 11 日～12 日、二日間にわたる晩秋の東北路へとバスによる研修となり、車中では、早速今回のメインの刑務所視察の研修に先立ち、(1) 八王子地区保護司会の全体活動状況（山中分区長及び黒子理事）(2) 更生保護施設「紫翠苑」の現状（名取施設長）(3) 更生保護施設「自愛会」の現状（山中分区長）についてそれぞれから報告と研修を受けました。そしてさらに長谷部旅行委員長から「福島刑務所」についての状況の説明があり事前研修を行いました。

宿泊先では、更生保護女性会の皆さんを含む参加者全員の親密な懇親を経て翌日の施設見学に望みました。

福島刑務所は、平成 15 年～24 年にかけて改築されたことでもあり、今回の震災による被害は、軽微とのことでした。また、放射能による汚染被害も無いとのことでした。収容定員は 1600 名余りで、一部外国人受刑者の収容もあり、木工作業など矯正作業を行っている状況や、受刑者に「母の慈愛をしのばせる」ことにより、更生の励ましとする願いから建立された「野口英世の母の銅像」などを視察することができました。

今回の管外研修旅行を通じて、風評を含む震災被害を克服し、日々矯正業務に従事する職員のご苦労や、施設管理の現状等をつぶさに見学することが出来たことと同時に、分区分会としての一体感と更生保護女性会との交流を実現することが出来、これからの保護司活動に活かせることが実感できた実りある研修となりました。



中央分区活動と管外研修 中央分区 柚原 道平



中央分区は現在 22 名、西八王子駅を中心とする狭い範囲で、3つの分区に囲まれた中にありますが、みなみ分区を入れた八王子地区全体からすると、中央とは言い難い思いがします。

分区は「社会を明るくする運動」「社会参加活動」「座禅会」研修部による各種研修と、管外研修への参加。その他「こども若者サポート事業会議」や BBS 会への応援等これらに則って分区活動を行っております。

今年度初めて、八王子市最大といわれる元本郷町地区防災フェアに参加し、一角を借りて「更生保護とは」のパンフレットを使い、保護司会の PR 活動をしました。

分区分会では主任官をお招きし、今関わっている主

任官の講義の後、個人の持っている問題を提起し話し合いもしました。

年数回の分区分会と暑気払いや忘年会等開催し仲間との絆を深めています。しかし分区の課題は保護司の発掘です。これからも退任者が続く上、女性保護司も今 4 名だけです。保護司発掘を一人ひとり真剣に、責任を持って取り組んで行かなければならない状況を実感しています。

今年度の管外研修は浜名湖方面に出かけました。まずバスの中で更生保護に関するビデオ 2 巻を見る車内研修でスタートし、浜松航空自衛隊博物館の見学では各種の飛行機を身近かに見て、触れて、また操縦席に座り機長になった気分を堪能し、その後実際に搭乗しているかの如くのスクリーン映像に圧倒されました。

夜はホテル下から宿泊者専用船で浜名湖をナイトクルージング、ネオンが映える湖面を眺め昼とは違う風情を楽しみました。また、保護司会活動の中で普段思っていることや、対象者のこと、面接に難儀したことなどを話し合い有意義に終わりました。

管外研修に参加して

西分区 立川 道雄



平成 25 年 2 月 13 日（水）、西分区「川越少年刑務所」の管外研修に参加しました。

川越少年刑務所の収容人員は 1500 人で、現在は約 1300 人を収容しています。処遇対象者は原則として 26 歳未満、犯罪の進んでいない刑期 10 年未満の男子少年たちで、年齢犯罪傾向等の特性に相応しい教育的処遇を実施し、改善更生の意欲を喚起しつつ社会生活に適應する能力の育成に努めているとのことでした。

刑務所に着き所内を視察するときの注意事項の説明を受けた後、持ち込みが禁止されている携帯電話等を預け、出入り口に向かいました。出入り口は二重扉となっていて一歩中に足を踏み入ると空気が張り詰めているのが感じられ思わず緊張感を覚えました。

刑務官の案内のもと視察順路に従い進むと、先ず目に入ったものは 25 メートルプールと、そこに何事も無いように休息する数羽の鴨の姿です。順次少年たちが作業をしている木工作業所やクリーニング作業所、講堂、居室等を視察しました。各作業所にお

いては、少年たちが与えられた仕事を黙々とこなしていて、一見看守の姿が見えなければ工場と見まちがうようでした。また、グラウンドでは少年たちが活発に運動をしている姿が見られた反面、運動場の隅に腰を下ろしている一団の少年たちがいました。薬物中毒等により通常の運動を控えられているとの説明でした。最後に、調理師や理容師の資格を取るための訓練室等を見て、最初に見たプールのところに戻ってきたとき、少年たちがどのような思いで鴨を見ているか感激深いものがありました。入った時と同じ二重扉の外に出たときはほっとした気持ちになりました。

視察終了後、川越少年刑務所の特徴等について、担当者より親切丁寧な講義を頂き大変良い勉強になりました。

帰りのバスの中で胸に去来したものは、あの刑務所内で作業をしている少年たちは、一見非常に真面目に働いている普通の少年にしか見えません。このような少年が何故犯罪を犯してしまったのか、その理由や動機はあるとは思いますが、今後刑務所を出所し社会人として生活して行く中にあるのは、人間関係や社会生活での厳しい目に晒されることになり、並大抵の気持ちでは耐え切れない環境が待ち受けていると思います。これに勝ち抜く強靱な精神と心構えを持ち、社会復帰を果たすことを祈るばかりです。

地域活動推進協議会を開催

協力組織部 八木 雅子

平成 24 年 11 月 19 日（月）八王子市学園都市センターで、地域活動推進協議会が、東京保護観察所立川支部鈴木統括保護観察官・主任官・保護司会・更生保護女性会・協力事業主会・紫翠苑・自愛会・BBS 会の代表 22 名が出席して行われました。

協議テーマ「再犯・再非行を防止するための処遇について」に基づいて、参加団体から次のような現状報告と意見交換が行われました。

・現状報告では

- 自愛会・紫翠苑在所者と更生保護女性会とのつながりのひとつに食事サービスがあり、退所後においしかったですと、喜びの感想が寄せられています。
- BBS 会のともだち活動の例として、学習支援（高校・大学受験のため）があります。相性の良い人を探して、それぞれに寄り添った指導を心がけています。いろんな世代の人とかかわることで何かを感じてもらえたらと願っています。在所者・対象者にとってはありがたいですし、勉強しようとする気持ちが持てて、とても助けられています。

- ハローワークの就労支援では、観察所との連携を密にし、将来に目を向けて、自分に合った仕事を見つけようと励ましながら対応をしています。助成金付き職業訓練は保護観察所と更生保護施設の了解があってから取り組めるものです。

・質問として

- 履歴書の書き方や、資格取得について

・意見として

- 更生保護施設等に入れた人は住所確保ができ、保険証や銀行口座も作れ就労への定着率が高い。しかし、一般社会の人への再犯・再非行防止の援助取り組みはまだ進んでいない現状がある。少年の再犯をなくすために、どうしたらいいのか…。鈴木統括保護観察官の講評で再犯防止に向けた総合対策の説明や、今後の諸団体への協力等があり盛会裡に終了しました。



更生保護サポートセンター

企画調整保護司 井上 六郎

八王子地区保護司会では、平成 24 年 6 月 1 日保護司会事務所（JR 八王子駅北口＜クリエイトホール地下 1F＞）に待望の「更生保護サポートセンター八王子」を開設しました。

開設にあたっては、ご承知のとおり、当保護司会は幸いにも平成 21 年 4 月 1 日保護司会事務所の開所に併せ、八王子市から委託を受けた「青少年立ち直り支援事業」（現在は、「八王子子ども若者サポート事業」に改称）に取り組み運営しておりますので、この助走期間のお陰で有効かつ容易にサポートセンターを受け入れ開設することができました。

運営にあたっては、企画調整保護司 6 名（センター長、副会長、総務部長、会計係、書記係、相談員）をもって、シフト制によってセンター（保護司会事務所）に常駐しております。

センターが設置されたことで、市からの委託事業「八王子子ども若者サポート事業」、地域の関係機関・団体との連携、面接場所の提供及び処遇活動に対する支援、非行予防活動、相談窓口の充実、各

分区・部への事務連絡等に対し、以前にはない多大な効果をあげております。特に、サポートセンター及び子ども若者サポート事業の総合相談窓口「サポートネットはちおうじ」への相談件数が増しました。これは市と一体となって、青少年の犯罪・非行予防と健全育成に取り組んでいることの結果ですので、これからも大いに市民の様々な悩みの相談に乗って、本当に安全で安心した生活ができる市民社会に貢献できればと思っております。勿論、両事業の運営にあたっては、まだまだ、未知数の部分が沢山ありますので、決して平坦な道のりではないと考えております。今後も、以前にも増して地域の関係機関・団体等各方面の方々からのご支援とご協力を得ながら一層の連携と推進を図ってまいりたいと思っております。

数字で見る実績 (24. 6. 1～25. 1. 31)

	来所人数	回数	人数	件数	備 考
保 護 司	328	118			
(更) 女性会	26	14			
B B S 会	39	29			
市 職 員	35	26			
主任官面接		31	71		
相 談				36	※ (24. 1. 1～)
学 習 支 援		9	9		※ BBS 会
協 議 会 等		15	86		
関係機関協議		5	67		
FAX 送 信		133	3020		
そ の 他	42				※ 上記以外の来所者
合 計	470				

趣味 悠々

俳句の楽しみ

東分区 石田 秀子

拭ひたる 箒にちひさき 松飾

歳時記等を読むのは好きだったので、古今の俳句には多く接してきたのだが、自身の俳句歴としてはまだ 7 年に満たず、この世界ではまだまだひよっこである。所属結社は「澤」。主宰は読売俳壇選者の小澤 實師。彼は五十代半ばの気鋭ながら、その人間的な魅力もあって、門下に二・三十代のスター俳人連から九十代の円熟層まで、全国レベルで多くの俳人を擁している。もちろん私はその「澤」の小さな一粒の砂にすぎない。

俳句の魅力は、たった十七文字で自分の世界を創り上げられること。それは別に机に向かっている時だけではなく、歩いていても（街でも旅先でも、プールの中でさえ！）乗り物の中でも、家事をしているときでも可能である。寂しがり屋の私が一人であることを全く苦にしなくなったのは、

俳句を始めてからのことのような気がする。

また、俳句は「座の文学」と言われるが、句会で囲むのが「句座」。ここで私はすてきな友人たちに出会えた。そして吟行でよく地方に出かけるが、必ず複数泊してその土地の風土や人々とじっくり向き合う。京都、長岡、松代、四日市、箱根等。よい句ができるかどうかは別として、句作の旅は普通の観光旅行とはまた違う楽しさがある。

ことばの世界が好きで、童話やエッセイ、記事から短編小説まで、ふらふらと書き散らしてきた私の最後の着地点が俳句だったのかもしれない。とはいえ、句会というのは句友や主宰から自分の句が評価を受ける機会なのだから、そのたびに、テストを受ける老学生のような心境になるわけで、少々しんどい。まあ、ほけ防止の一助くらいにはなるかもしれないと自身を励ましてはいるのだが…。



長野県松代町で

シリーズ 保護司による八王子探訪

甲州街道旧横山村・ 旧浅川町をゆく 高尾分区 塚本 吉紀

八王子市を縦断している街道、それが甲州街道でしょう。その中で私の住む近くの名所旧跡、歴史を取り上げてみよう。昭和 4 年に植えられた 760 本の銀杏並木が追分から高尾駅までの約 4 キロに植えられ、春には新緑、秋は金色に輝き、八王子のシンボルにもなり八王子市を訪れる方々を喜ばせている。

並木町（旧新地）の交差点は昭和 6 年 3 月北野駅から分岐して山田駅を通り御陵前までに至る京王御陵線が高架で走っていた。並木町交番のところには横山駅があった。交差点を高尾方面に向かって右折すると南浅川にかかる横山橋がある。橋の左側には京王御陵線の鉄橋があった。今もその橋脚が歴史の痕跡を残している。直進するといまは都営長房団地、そこは旧東京陸軍幼年学校の跡地である。そこで学んでいた生徒の戦死を慰霊する東幼観音が長房中郷の東照寺に建てられている。

多摩御陵前の交差点を高尾方面に向かって左折すると大正天皇の崩御で、そのみささぎ（陵）が南多摩郡横山村に決定したことで建設された東浅川宮廷駅の跡がある。右折すれば陵へ向かう欒並木の参道である。南浅川橋を渡るが、コンクリートラーメン橋台固定アーチ橋で表面は大理石で覆われた橋である。当時は東洋一の美しい橋と言われたと聞く。桜シーズンに橋上から見る左右の桜並木は絶景である。参道の左側には都立陵南公園が、昭和 39 年の東京オリンピック開催時には自転車競技場が作られ多くの日本や外国の選手が競技をしたのである。さらに進むと多摩御陵（大正天皇陵）、多摩東陵（貞明皇后



京王御陵線の鉄橋の
橋脚の跡

南浅川橋 昭和11年12月完成

陵）、武蔵野陵（昭和天皇陵）、武蔵野東陵（香淳皇后陵）がある。

旧浅川町の前宿には旧鎌倉街道が、今と昔の甲州街道を縦断している。そこを北に歩くと旧鎌倉街道と書かれた古道橋が南浅川に架かっている。そこは昭和の日の制定時に“昭和の道”と名付けられ、今は市民に喜ばれている遊歩道になった。

高尾駅の交差点は銀杏並木の終点地であり、左折すると高尾駅（旧浅川駅）、この駅は大正天皇御大葬の時、新宿御苑に造られた仮停車場を移築したものと聞く。右折すると敷島橋があり、その先は桜並木（地名…二十里（とどり））があった。今はオリンピックの時に自転車競技のロードレースコースの拡幅工事で桜は全て切られその面影はない。

高尾山登山口近くまで、昭和 11 年ごろは八王子市内から武蔵中央電鉄が走っていた。その武蔵中央電気軌道の痕跡が少しある。高尾山には高尾山薬王院有喜寺（南無飯縄大権現を祀る）があり、今は自然の素晴らしさ等から世界の名所である。甲州街道は明治 21 年小仏峠越えを廃止し、大垂峠を拡幅して現在の甲州街道になったと聞く。



古道橋

編集後記

ことのほか寒い冬も終わり、どことなく梅の香りが漂う季節。卒業式・終業式を間もなく迎えようとしています。

卒業生は、大きな夢を持って大空に羽ばたいていくものと思いますが、保護司会としても卒業生を応援していければと思います。

輝かしい未来のために

平成 25 年 3 月 15 日発行

発行 八王子地区保護司会
編集 広報部
電話 042-664-2268

本紙は自然保護のため再生紙を使用しております。